

第6回 長崎市平和公園再整備基本計画検討委員会

及び

第6回 長崎市平和公園スポーツ施設の再配置に関する再検討部会

合同会議

1. 開会

- 事務局より開会の挨拶

2. 挨拶

- 川原土木部長より挨拶

3. 合同会議の運営について

- 配布資料の確認
- 24人中18人が出席しており、委員の過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告
- 委員の変更及び事務局の人事異動を報告
- 配布資料の確認
- ライブ配信の開始

4. 関係人の出席について

【委員長】

- ・関係人の出席について事前に事務局から話があったと思うが、委員会として求めてよいか。

(一同了承)

【委員長】

- ・関係人は趣旨に沿った意見若しくは説明のみでお願いします。なお、議事の進行上、時間は2人で16時20分までとし、説明及び質疑を合わせて8分程度でお願いします。

【関係人】

- ・プールの移転問題について、大所高所からの議論、将来の長崎市まちづくりの観点か

ら、審議されるべきである事項と内容の議論を問題点と疑問点等にし、私の感じるところを述べさせて頂く。

- ・第5回再検討部会で、市民総合プールの移転問題に関して、主に水泳関係者と陸上競技関係者との議論で、両者間だけの問題であるような違和感を覚える審議内容であったように思えた。
- ・例えば、資料に関してパターン3に関する案は、3-1から3-3と細かく分類されており、プールを陸上競技場に移すのが最善で推奨されるかのような資料作りとなっており、公平性を欠くのではないかと思えた。
- ・水泳関係者と陸上競技関係者、両者のみの議論に矮小化され、守る会の南委員がこれまで述べられてきた意見等に対する議論が十分ではないまま結論が性急に導かれようとしている印象を受けた。

○長崎市都市計画マスタープランから見た案

①松山陸上競技場にプールを移設する案

- ・パターン3に代表される、プールを松山陸上競技場に設置する案は、長崎市都市計画マスタープランの観点から、松山陸上競技場に移設することの必然性や意義が全く見当たらないように思う。
- ・松山陸上競技場は年間約350,000人がスポーツや余暇活動を楽しむ交流の場として、集うという目標に合致し、マスタープランに掲げる役割を十分に果たしている。その役割機能をなくし、年間350,000人の利用者の不利益を作り出してまで、プールを陸上競技場に移設する強い理由が明らかになっていない。
- ・松山陸上競技場は長崎市のシンボルである平和公園の西側スポーツゾーンの象徴的存在と見られ、東側地区と一体と考えれば、いわゆる鎮魂の場所でもある。プールを移設する行為は公園としての充実どころか破壊行為であり、マスタープランの趣旨とは矛盾することになる。
- ・防災を高める公園の確保という点で、松山陸上競技場は平坦な土地の少ない長崎にあって、極めて貴重な場所である。例えば住民の避難地、ドクターヘリの発着地、物資の集積地としての機能を今後も果たす重要な場所である。
- ・プールを移設した場合、防災上、松山陸上競技場と同等の場所がどこか確保できるのか。防災を高める公園の確保どころか放棄になっていないか。
- ・松山陸上競技場にプールを移設する場合、稲佐山を望む景観上の問題もある。高さ制限によって制約されるとはいえ、鎮魂と平和の聖地と言える平和公園の西側の中心に大きな構造物が建てば眺望も開放感もかなり損なわれる。平和全体の醸し出す雰囲気に影響する。
- ・日常利用する市民だけでなく、国内外から聖地を訪れる多くの観光客及び修学旅行生にとってもマイナスの作用となる。
- ・以上のように、国際観光都市、平和都市である長崎市の都市計画、まちづくりの観点

からプールを松山陸上競技場に移設する場合の案はデメリットが多いと思える。

- ・改めてプールを松山陸上競技場に移設しなければならない理由を、都市計画、まちづくりの観点から、多くの一般市民が納得できる形で提示した上でご議論していただきたいと思う。

②中部下水処理施設跡地にプールを移設する案

- ・パターン1は、松山陸上競技場は現状維持でプールだけの移設のため、経済的な損失を含めた総合的な損失が最小限に抑えられる極めて常識的な案であると思う。
- ・プール施設を中部下水道処理場跡地に持ってくれば、長崎スタジアムシティとの相乗効果によって、都市計画マスタープランに沿った、賑わいのまちづくりへのさらなる貢献が期待できる案だと思う。
- ・プール施設にかかわらず、いずれは長崎市の都市計画として中部下水処理場跡地の活用を具体的に決める必要があるが、その場合でも、賑わいのまちづくりのコンセプトに合致した施設とする必要がある。
- ・プールを移設できるのであれば、中部下水処理場跡地の活用の解決にもなる。
- ・中部下水処理場跡地の場合、上屋を除く整備費が駐車場を含めて27億円と高額であることが問題になっているが、積算根拠や、どうしてそうした工法を選択するのかよく分からない。
- ・今回プールを移設しない場合にも、基礎工事費の問題は必ず出てくる。もし現時点でプールを中部下水処理場跡地へ持ってくるのであれば、長崎県がその費用を基準に沿って補填することによって、長崎市としての負担は大きく軽減される。
- ・中部下水処理場跡地の活用を別のものにするのであれば、その負担は全て長崎市が被ることになる。
- ・整備費のほか、交通アクセス等が問題になっているが、例えばJR長崎駅とJR浦上駅の間に位置しており、スタジアムシティへの遊歩道も整備される予定で、松山陸上競技場より利便性はかなり良いのではないかと。
- ・また交通渋滞、混雑、その他に関しては、すでに長崎駅周辺交通対策特別委員会で長崎駅新ビルやスタジアムシティ開業後の市民や観光客の安全で快適な交通環境を確保するための諸方策が検討され、報告書として取りまとめられているため、事務局へこれらも資料として提示して議論されるよう要望する。

③パターン3を採用する場合の一般市民の経済的損失について

- ・パターン3のどの案に沿ってもプールを松山陸上競技場に建設した場合、400メートルトラックという中高生の部活動の拠点がなくなるばかりか、現在のように安心安全に歩いたりジョギングしたり芝生でレクリエーションに興じたりする環境は大きく減殺されるのではないかと。
- ・プール自体の本来望むべき機能の実現も一定程度損なわれるのではないかとと思われる。

- ・平和公園という長崎の思いを世界に発信する代表的な施設の損失も含め、これらの不利益は経済的な損失として資料に可能な限り反映し、議論されるべきではないか。
- ・一般に新たな土木事業を計画するときはその事業によってもたらされる便益と建設費等のコストとの比、いわゆる B/C、これを評価してその事業によってもたらされる経済効果がどれだけ高いか、事業を計画実行すべきかどうかの判断材料とする。当然時代の変化で当初より B が下がれば、計画は見直されるか、場合によっては廃止されることもある。実際に長崎県または長崎市の委員会で、事業中止あるいは事業途中で内容の変更はいくつも経験している。
- ・松山陸上競技場にプールを移設することにより、年間延べ約 350,000 人の利用者などが被る不利益を経済的な損失として資料に反映し議論すべきと提案する。
- ・例えば高齢者が健康維持のためのウォーキング等で利用できなくなった場合に生じる健康被害は、医療費支出として算定されると同時に、健康被害が発生しなければ得られた利益の損失分（逸失損失）の合計によって経済損失が算定され、そのほかイベント会場として使用できなくなった場合、他の会場借り上げ料との差額等が発生する。わずかな事例を見ただけでも様々な利用者が被る不利益は多岐にわたり膨大な経済損失に繋がることは容易に想像できる。
- ・事務局は一般市民が被る経済的な損失を資料に掲載して議論をしていただきたい。
- ・最後に松山陸上競技場は現状維持でプール施設を中部下水処理場跡地に移設するパターン 1 を推奨して意見陳述を終わらせていただく。

【委員】

- ・指摘された陸上関係者と水泳関係者のわだかまりという部分は解消させておきたい。
- ・高齢者を含めたウォーキングなどは、公園にプールができたとしても、整備の中にきちんとウォーキングコースが作られているので、後半に原田関係人が指摘した内容は、ニュートラルになる。これは再検討部会でも議論されたことである。

【委員】

- ・それぞれの立場で違ってくると思うが、原田関係人は交通アクセスの部分を重要視していないように思える。
- ・プールの利用者が約 15 万人～16 万人で、子供たちのほとんどが公共交通機関を利用し、また心身障害者の方々は、松山の電停から 15 分～20 分かけて通っており、心身障害者の方々の利用は年間 4000 名を超える。
- ・小学校低学年の子ども及び幼稚園児含め、比較が出ており、南委員は前から大小変わらないと発言しているが、子供たちの立場から、実態を目で見て、肌で感じていただければ、交通アクセスについて原田関係人の見方も公平に冷静になるのではないかとと思う。

- ・もう一点気になったのは、長崎市が負担するのはよくないが、長崎県が負担すればいいという発言である。我々は長崎市民と同時に長崎県民でもあり、そういった発言は謹んでいただきたいということをお願いする。

【関係人】

- ・ここは私が反論する場ではなく、意見を申し上げる場だ。今発言した事に対して、全ての懸念事項はこの文書の中に全て入れているので、逆に私が伝えたい意思はご理解いただきたい。

【委員長】

- ・原田関係人の説明を終了しまして、次の清水関係人のご準備を。

【関係人】

- ・3月の打合せでは、地盤改良の本数は300本との回答を得たが、第5回委員会では2,200箇所と訂正があった。本数と箇所の違いを聞いたが、よくわからない。さらに、その後の資料では2234本と、また「本」に戻っている。
- ・既設の5,000本の杭は使わないとのことで、13メートルと聞いたが、資料⑤ページ5の平面図を拡大してみると、杭径のほとんどは、350や300で、これはPCのコンクリート杭だと思われる。これが5,000本入っているということである。
- ・提案があった深層地盤改良について、イメージ図から見ると、工法を明記していないため私の推測だが、スラリー攪拌工だと思う。これは回転翼を回しながら土を攪拌し、セメント、改良剤を入れていくものである。国交省の積算歩掛があるので、自分の経験を生かして積み上げてみたところ、直接経費が1本あたり137,000円で、2,234本を掛け算し、3億6000万ほどになった。機械の移動経費など見込めていないが、それを10%程度、消費税を10%にすると、6億1200万程度になる。それで2234本の施工ができるのではないかと私は見込んでいる。

○地下構造物の対策方法

- ・資料には、地下構造物の対策工法の方が先に来っており、基礎の整備が次にきていると思うが、それが正解だと思う。施工手順として、地下構造物の撤去の方が先で、二番目が基礎杭の深層地盤改良工法の施工になる。
- ・山留の経費が、490メートルで4億9000万になっているが、1メートルあたり100万円と大まかな積算だと思う。
- ・資料5のページの平面図を拡大してみると、大きさが155メートルの90メートルという形で、表現されていると思う。資料5を見ると、長方形ではなく正方形に近いと思わないか。整備形状155メートル掛け90メートルの大きな平面図で、市道の道路が8メートルではないかと思い、どれくらいの割合か測ってみたところ、ちょうど

1,000分の1のスケールになっていた。概算だが、長辺140メートルの短辺100メートルで、155メートルの90メートルではない。

- ・山留工を四隅に全て490メートルとするようにしているが、資料にあるように図面左手に5000㎡の駐車場があるとしたら、正面はプール本体の玄関で、図面上側に入口用の通路、下の方が出口用の通路になるのではないかと考えた。少なくとも図面左側は駐車場ができるため地下構造物は必要ない。
- ・それにプラスして、グラウンドレベル+2.7とのことで盛土をするので、山留工の必要はない。掘り込む必要がない。
- ・それと、通路を上下にとることは、幅を取って穴掘りをすることになる。労働安全衛生規則というものがあり、5メートルまでは75度、5メートルを超える場合は60度の角度まで切り取ることが許される。なので、5メートルの通路をとったうえでオープンカットで工事を行えば山留工の4億9000万円、5億円の必要性はないと思う。

○地下構造物の撤去

- ・資料2、「切土」というのが地下構造物の撤去からコンクリート処分場までの積算である。
- ・次に盛土である。事務局は埋め戻しと表現しているが、掘削は60年前に行っているため、埋め戻しという表現はおかしい。盛土だと思う。近くの採石場から採取土ということで、32,700立米を計算してみたところ、2億1,800万円だった。積算しているため、約半分の値段でできるかと思う。

○駐車場

- ・概算工事費として2億円が算出されており、隣の茂里町駐車場の1台あたりに換算して算出されているが現場条件が違うと思う。
- ・例えば、整地工、付帯工、植栽工、雑工などが上がっているが、中部下水処理場での駐車場の整備工事には必要ないと思う。それを割り算の中に入れてしまえば当然割高になる。
- ・そして、前回の委員会でもお伝えしているとおり、不陸整正、路盤工、表層工で2160万。排水溝がないため資料を付けており1000万程度。照明灯は、大手メーカーに依頼した。
- ・ゲート式の駐車場機器が3000万円以上しているが、これも見積りをいただき、資料をつけている。
- ・以上を合計すると、6000万円程度あれば駐車場ができるものと思われる。

○まとめ

- ・経済性が大事な要素なので、部会委員の皆様や先生方の公平公正な立場でのご判断をお願いしたいと思う。

【委員長】

- ・ご質問があれば意見交換を行いますので、説明の内容についての質問はあるか。

【委員】

- ・中部下水処理場にプールを持ってきた場合、基礎・改良で25億と数字が出ているが、非常に高い費用になっている。貴殿が見るように15億円ででき、25億円は高いのか。それが一点目。
- ・もう一点、先ほど田中委員からもあったが、市の負担になるのか。または公共工事の場合、県の負担でできるのか。もしくは国からの補助があるのか。その辺の知識があれば、教えていただきたいと思う。

【関係人】

- ・駐車場まで入れて27億となっており、もし山留工等の必要がなければ、11億、12億程度の費用でできると思う。
- 中部下水処理場の地下構造物の取り壊し
- ・管理棟も含め、ほとんどのグラウンドレベルは2.7から上屋が多い。
 - ・上下水道局は会計管理者が違い、ある意味企業だが、新しく行う事業は市町の管轄である。
 - ・本来、下水道事業の中で撤去して更地にするものだと思う。少なくとも上屋は更地にしていくと思う。
 - ・補助事業の対象になるかどうかは分からないので、県の方へ確認する。
 - ・余談だが、下水道処理施設は上澄み液を浦上川に流すため高いところに水を流す口がある。しかし、競泳用のプールは底盤から流さないといけない。下にプールを沈めてしまうと水が流れないため、ポンプ場が必要となる。県の方に聞いてみたところ、最高潮位は長崎港が1.54で、今現在の処理場は+2.70である。よって、今の地盤から少ししかプールの底盤が下げられない。そして、ほとんど地下構造物を造る必要がない。今の地盤の上にプールができるのに、なぜ地下構造物を撤去するのか理解できない。いろんな工法があるかと思うが、新しいプールの設置は地下構造物を撤去しなくても大丈夫だと思う。

5.議事 スポーツ施設の再配置先の評価に関する意見交換

【委員長】

- ・今回は再検討部会の内容を踏まえ、市民総合プールと陸上競技場の候補地の評価について議論を行いたいと思う。事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・入る前に井上委員から事前通告があっているため報告する。

- ・再検討部会の意見交換の中で、田中委員から陸上競技場の場合は、各学校のグラウンドなど運動施設でできる部活動を敢えて陸上競技場に来て行われているとの意見や、誹謗中傷とも受け取れる発言に対して井上委員から申し入れがあっている。
- ・委員長と部会長に相談して、委員間で別途個別に別の場所で協議することになったので報告する。
- ・委員会では忌憚のない意見を伺いたい状況ではあるが、誤解を招くような発言に関してはご配慮をいただくようお願いする。

【委員】

- ・誤解を招くような発言は注意してくださいというのは、私に対する指示なのか。

【事務局】

- ・皆さんへお伝えしている。決して田中委員だけに対することではない。

【委員】

- ・どういう受け取り方をしたか分からないが、そういった趣旨で話したつもりはない。

【委員】

- ・土木企画課長から話があったが、田中委員の言動にいくつか問題点が見られる。
- ・例えば、事前に事務局と話をしているが、いろいろ問題発言が見られることについて、守る会と游泳協会、事務局及び委員長で話をしなければならないと思う。
- ・第5回再検討部会の中で田中委員は、南委員の発言に対して、人間性を疑うという発言をしている。その趣旨は何か。

【委員】

- ・言葉の表現は正しくなかったかもしれない。それは訂正しお詫びをする。
- ・ただ、南委員の姿勢に対する疑問というものが残る。
- ・この場では、事務局からお話があったように、游泳協会というよりは個人としてお話をしたいと思う。

【委員】

- ・游泳協会の代表として出ているのであって、個人の意見を言うところではない。

【委員長】

- ・事務局は説明をお願いする。

○「資料3」について事務局から説明

【部会長】

○再検討部会の概要について説明を行う。

- ・計5回の再検討部会を開催し、3つの案を支持する意見が見られた。
- ・パターン1の中部下水処理場跡地にプールを配置し、陸上練習場を存続する案
- ・パターン3-2の陸上練習場にプールを配置し、現在のプールの場所に300mトラックを再配置する案
- ・パターン4の陸上練習場にプールを配置し、中部下水道処理場に400mトラックを再配置する案
- ・ただし、各パターンで問題点も指摘されている。
- ・パターン1に関しては、コストの面では見過ごすことができないぐらいの費用がかかるということ。長崎都心まちづくり構想等の他の計画との整合性が担保されない可能性があるということ。集客施設の集積による動線の混乱や渋滞が発生する可能性があること。民間プールや長崎スタジアムシティを含む競合他社、競合施設の民業を圧迫する可能性があるといった意見が出された。
- ・パターン3-2に関しては、300mトラックが練習環境としては不十分だという意見が出された。
- ・パターン4に関しては、コスト面以外において、パターン1と同様の問題があるのではないかと意見が出されている。
- ・パターンを考える際には、1つのパターンのみを取り入れるのではなく、いろいろなパターンを組合せ、それぞれの配置パターンのいいところを取り入れることも重要だという意見もあった。
- ・また、長崎のまちづくり全体を見据える中で、スポーツ施設をどのように位置づけるのかという、大局的な観点から場所の特性も踏まえて考えることや、平和との関連性を考えながら再配置の位置づけを検討する必要性についての意見もあった。
- ・事業実施に際しては、長期に渡るため、競技の実施に差し障りがある場合に、それに対する代替措置をとるといったものを考える必要があるとのご意見もいただいている。
- ・再検討部会では1つの案にまとめることはできなかったが、競技団体をはじめとする様々な方のご意見をいただき、建設的な議論が展開され、非常に良かったと感じており、再検討部会を開催した意義はあったと考えている。
- ・検討委員会は平和公園の再整備にかかわる重要事項の調査審議を行う場と位置付けられている。したがって、再検討部会の目的というものは再検討部会の上位の機関に相当する検討委員会における円滑な協議や市長の最終的な判断材料を揃えることと考えている。

- ・再検討部会では 3 つのパターンを支持する意見があったという報告にとどめさせていただく。
- ・再検討部会のメンバーを加えた今回の平和公園再整備基本計画検討委員会の場で改めてご議論をお願いしたい。

【委員長】

- ・再検討部会で 3 つの案を支持する意見が多かったとのことだが、どの案が望ましいか議論していきたい。
- ・まずは、再検討部会の委員以外の皆様から様々な視点からご意見をいただきたい。

【委員】

- ・パターン 1 は経済性や交通アクセスなどの問題がある。
- ・パターン 3-2 は 300mトラックの橋脚等の問題があり練習環境として良くなく不適当だと思う。
- ・パターン 4 はプールの利用者や陸上練習場の利用者が納得するのであれば 1 番いいと思う。
- ・パターン 1 かパターン 4 で議論を深めて行くのがいいと思う。

【委員】

- ・整備費用が一番大きな問題だと思う。
- ・パターン 4 が今と同じ機能を有するなら、防災機能の確保や隣のスタジアムシティとの連携などを考えると 1 番望ましいのではないかと思う。

【委員】

- ・再配置においてプールと陸上練習場の機能が支障なく果たせることが 1 番大切だと思う。
- ・周辺のエリアの機能の連携や調和など、まちづくりとしての効用が高まる必要もあると思う。
- ・各施設への投資等による経済性費用対効果の視点も重要と考える。
- ・パターン 3-2 はスポーツ施設の集積では評価できるが、高架下の空間で利用機能の面が十分ではないと思う。
- ・パターン 1 は精査が必要との意見もあるが、整備費用が相当かかると想定される。また、プールが土地の面積の大半を占めるため、スペースの確保や交通渋滞を考えると優先度は低いと思う。
- ・パターン 4 の優位性が高いと考えている。また、用地活用の視点から、スタジアムシティや文化施設など周辺施設との調和や連携が大切になる土地になるため、多目的機

能を入れるかなども含めの検討が必要だと思う。

- ・費用対効果については長崎市において、十分に検証していただきたいと思う。

【委員】

- ・パターン 1 の場合、かかる費用は県や国が少しお支えする部分があるかもしれないが、数億円単位の負担が市に課せられることになる。その負担が市民サービスの低下に繋がることが考えられる。また、他のパターンにした場合、その費用を公園利用者のため、より良いものに使用することも考えられる。
- ・パターン 4 は相乗効果や費用対効果を見極めていく必要があるが、少ない費用でどれだけの成果を出せるかといった視点から優位であると考ええる。

【委員】

- ・パターン 1 は費用が大きな問題と思っていたが、条件等の整理をしなければ費用の議論はできないと思った。
- ・パターン 4 がプールと陸上練習場の必要な機能が確保できるのでいいと思った。また、プールの周りに外周園路が確保でき市民利用に支障がなく、プール横には憩いの広場が確保できるのはいいと思う。
- ・プールも単に整備するだけではなく、多機能、市民の夢を実現できる総合的な施設として整備ができると見え方が変わってくると思う。

【委員】

- ・団体内で聞き取りを行ったが、視覚障がいの方や知的障害の方が松山の陸上競技場を利用しており、アクセスが良く存続してほしいとの意見があった。
- ・中部下水処理場の横に長崎市障害福祉センターがあるが、障害の方が訓練をするプールがある。特に若い方からは、スタジアムシティ等々でスポーツが盛んになってきているので、中部下水処理場にグラウンドとプールを作してほしいとの意見があった。
- ・団体内でも意見が分かれている状況。

【委員】

- ・平和とスポーツは近くにあるべきだろうということで、基本的にはプールと陸上競技場が同エリアにあると望ましいと思う。
- ・ただ、中部下水処理場の隣にスタジアムシティがあるため、スポーツのエリアと捉えれば選ぶのが難しい。
- ・パターン 1 は費用の問題があるが、若者世代からすると、税金が投入されるので次の世代に負担が来るかわからないが、不安が大きいというところが正直なところ。
- ・費用面を考えるとパターン 4 がいいと考える。

- ・パターン 3-2 は 300mトラックになるので陸上関係者の意見を尊重した方がいいと思うが、もし練習環境として支障がなければ、次の候補としていいと思う。
- ・陸上競技場にプールを作る場合、平和祈念像のある祈念像地区から稲佐山までの軸線上にプールが来るため、どのように見えるか、景観の点が気になっているため、しっかり配慮してほしい。

【委員長】

- ・再検討部会以外の委員の皆さんに、これまでの議論を聞いたうえで、幅広く見識を示していただきましたが、全体の方向性としてはパターン 4 がいいとの意見が多かったと思われる。
- ・また、将来にわたって使い続ける人たちの利便性、平和や夢など長崎ならではの象徴となるものを織り込んだうえで実現できないかというのが皆さんの大まかなご意見だったかと思う。
- ・以上を踏まえて、再検討部会の委員の皆様も含め、ご意見をいただければと思う。

【委員】

- ・これまで事務局長代行の南氏が出席していたが、今回から事務局長の私が出席することになった。
- ・陸上競技を元気に存続するパターン 1 以外の高規格道路インター近くに 300mのトラックを作るパターン 3-2、中部下水処理場跡地に陸上競技専用の 400mトラックを作るパターン 4 の場合は、現陸上競技場内に高さ約 20mのプールが建設され、現在 600mの外周路を 800mにしてプールやテニスコート、弓道場を周回するコースとなる。
- ・検討部会ではこれまで、松山運動公園が持っているポテンシャルについて縷々説明してきたが、今回は委員会の方も参加しているので、そのポテンシャルについてさらに説明させていただく。
- ・今委員会の方々パターン 4 がいいだろうというような意見が多かったが、それに疑問を感じている。
- ・松山陸上競技場が持っているポテンシャルについて、委員会の中でも、検討部会でもあまり意向を検討されていなかったというようなことで列挙してみた。
- ・第 1 松山運動公園の利用状況、年間 35 万人について、松山運動公園は現在、実業団チーム（三菱重工、十八親和銀行、メモリード）の朝練習、一般市民の早朝の散歩、早朝のラジオ体操（グラウンドいっぱい広がって行われる）、幼稚園・園児の園外活動、一般市民の散歩や老若男女の語り、修学旅行生の立ち寄り、食事、午後 4 時頃からは実業団、大学、中学、高校、一般市民やジュニアクラブのスポーツ教室など 250 名から 500 名の陸上の練習が開始されている。
- ・陸上競技以外にも水泳やテニス、野球サッカーなどのランニングトレーニングをする

のがよく見られる。

- ・夜間のランニングやウォーキングもあっている。
- ・その他、春先の近隣学校の歓迎遠足、長崎西高の長距離走の授業、約 1000 名以上参加する市老人クラブの運動会、各種レクリエーション大会、ドクターヘリの離発着、災害時の被災物資の集積、精霊流しの流し場など多種多様な利用があって、「市民が集い、スポーツを通して平和を感じる」貴重な場所となっている。
- ・委員会出席の方にお伺いする。松山運動公園にプールを移転するとパターン 3-2 や 4 のように、このような機能を果たすことができると思うか。
- ・プールの周りを（夜間）歩いたり走ったりしている方が危険にさらされると思わないか。今日は女性の方も来られているので、女性の目線からも提起させていただく。
- ・また、歩いている人に尋ねたら、「松山は広々として、山も見え、木々の緑も多く子どもたちの元気な姿を見ることを楽しみにして来ている。元気をもらっている。あんな達も頑張って松山を残してください。」と言ってくれた。これこそ、市民の集い・憩いの場所となり、長崎健康革命の象徴ともいえる。
- ・さらに、他県から来ている学生が多い長崎大学陸上部員や長崎大学医学部の陸上部員は「このようなグラウンドで練習できて最高です。私の町にはありません。」と言ってくれた。
- ・このように広い空間は市民の宝として多くの機能を有し、全国に二つとない、全国に誇れる運動公園である。
- ・これまで 1 万 4000 筆の存続要望署名と、「長崎陸上競技協会理事・公式審判員有志一同」「スポーツを楽しむ長崎障害者の会」「松山を愛するウォーキング市民の会」など約 30 団体からも存続要望が出されている。いまだに署名が寄せられている。
- ・プールの解体・移設は、国・県の補助金が出されるのに、わざわざ 300mトラックに規模を小さくして高規格道路下につくり、中部下水処理場跡に 400mトラックをつくらとするパターン 3-2 やパターン 4 は市の負担となる。
- ・なぜ、プールを陸上競技場に移転し、陸上競技場を他の場所に移転しなければならないのか。これこそ税金の無駄遣いと市民からそそりを受けることになる。
- ・特に原爆被爆者の多くが眠る松山陸上競技場を掘り起こすことは平和を希求する長崎市民・県民の後世に禍根を残すことにならないか。
- ・第 2 400m、600m外周路等の必要性について
- ・400mトラックは絶対に欠かせない条件である。現在、松山運動公園は 8 レーンの 400 mトラックとフィールドそれに 600mの外周路、芝生広場および 8 レーンの外側に 500mの走路がある。
- ・松山運動公園は、この広さがあるから 250 名から 500 名の競技者が練習できる。これを無くすことは陸上競技の死刑宣告にもなる。25mプールを 20mに、50mを 35mにすることと同じ意味合いがある。

- ・これがインターチェンジ高架下に実現性のない 300mトラックと 100mの直線走路を作ったとしても、250名から 500名の競技者の練習は全くできない。本日の合同委員会、あるいは次の合同委員会の議論をもってパターン 3-2 を消去すべきだと思う。
- ・第3 交通アクセスについて
- ・中部下水処理場跡地と松山陸上競技場はまさに「五十歩百歩」、むしろ中部下水処理場跡地が優位と私たちは思う。
- ・田中委員は頻繁に子供たちが交通弱者、中高生は交通強者と発言されるが、信号や横断歩道の数を問題にするのはおかしい。信号機や横断歩道が多い小学校や幼稚園に通う子どもたちはどうなのか。県内外の公認プールを見ても、松山であろうと中部であろうと非常に恵まれている。何度も言うように、児童や高齢者が特に多いのはプールだけではない。陸上競技場を含め、どのスポーツ施設もいる。プールが特別でないことを申し上げる。
- ・また、スタジアムシティの交通混雑については特別委員会において、県・市・県警・開催者が一緒になって交通対策を講ずるようになっていないか。
- ・水泳連盟の荒木委員は、「中部にプールを移転していいが、ココウオーク内にあるルネサンス長崎の民業圧迫になるのではないかと心配。」と発言されていたが、両者は料金体制も異なるし、利用者層のニーズも同じではない。それに市民総合プールの利用者は遊泳協会の令和 5 年度事業報告では 14 万 5000 人で、全国大会もまれである。
- ・そのほか、第 5 回再検討部会では田中委員は山川委員に対し、陸上競技のいろんな関係者の意向をパターン 4・5 を含めて希望順位などの形で集約してもらったほうが、次回の委員会の進捗にもつながる、委員会の結論にもつながると発言しているが、私が長崎スイミングクラブの競技者に尋ねたところ、大きな大会ができる 10 レーンのプールがあればいい、場所は松山にこだわらないと答えてくれた。
- ・この方の意見が全てとは思わないが、水泳関係者にも陸上競技協会にも一方的に要求するのはなく希望順位を集約したらどうか。
- ・まとめに、最後これまでの再検討部会での松山運動公園を守る会のまとめとして、
 - (1) 400mトラックは陸上競技の練習に欠かせない。
 - (2) かきどまりは利用に適さない。
 - (3) 300mトラックでは練習できる広さではない。
 - (4) 市陸協・守る会側はすでに可能な譲歩は示している。
 - (5) 評価の一つである交通アクセスは双方に問題点はない。
 - (6) 現松山運動公園は原爆被爆者が眠っていると言われ、原爆投下時とほぼ形状を残す被爆の生き証人である。
 - (7) 現松山運動公園は市民のスポーツ推進、健康増進、交流、憩いの場所になっている。
- ・以上のことから、松山運動公園守る会はパターン 1、陸上競技場の現地存続を希望す

る。

【委員】

- ・実は1年前、2023年の5月23日、市民会館にて長崎市土木企画課中野課長はじめ、スポーツ振興課、当時の井課長をはじめ、長崎市陸上競技協会の理事11名に対して、今回の松山に関する説明を受けており、パターン3-2の提示をされた。
- ・そのときに伝えたことだが、長崎市陸上競技協会としては指導者の立場、または利用者の立場からも、非常に危険であるということを伝えている。
- ・パターン3-2の図の右上にあるスポーツ広場イメージ図について、陸上競技場の上に、取り付け道路が3本流れるイメージ図があるが、注釈に書いている通り、そこには柱が建つ予定である。
- ・再三、皆さん意見を言ってくれたが、非常に危ないのではないかといいところは指摘させてもらっている。陸上競技は100mを10秒で走るトレーニングをしており、時速で言うと36キロになる。
- ・そういう環境でやっているスポーツ施設でありながら死角を作ってしまうと、今後どういうことが起こるのかっていうのはイメージがつくかと思う。そういう部分で300mトラックに関してはもう交通事故と一緒にすよということで非常に危ない。
- ・現状、250名程度、本当に活動している。その人たちが飽和状態になってしまうと非常に危ないのではないかといいことがあったので、以前指摘をさせてもらった。
- ・にもかかわらず、今でもパターン3-2が適当と議論上にとずっと上がり続けているのがこの1年である。
- ・それを踏まえて一番利用している団体である我々が伝えているが、なかなか反映されていなかったこの1年間だった。
- ・また、田中委員から第5回の再検討部会で陸上競技関係者の意向に関して取りまとめのお願いがあり、意見をもらったので、4月当初にアンケートを行った。
- ・4月当初に4月の7日から1週間程度で私が会える人にアンケートをした結果である。20団体より回答があり内訳は以下の通り。
- ・アンケート項目は全部で8つ。
- ・1番と2番で学校名、指導者名、部員数について
- ・部員数については、延べ675名控えており、アンケート実施の際は新生がまだ含まれていない。
- ・実業団が3チーム（三菱重工、十八銀行、メモリード）。
- ・大学が2チーム（長崎大学、長崎大学理学部）
- ・高校が6チーム（瓊浦高校、純心高校、南山高校、海星高校、長崎西高校、長崎北高校）。高校生だけで実は170人ぐらい、4月の当初で部員がいる。
- ・中学校では土曜日がメインで、緑が丘中学校、山里中学校が来ている。

- ・クラブチームは5チーム（ヴィクトワール、どんぐり倶楽部、長崎アスリートクラブ、長崎陸上クラブ）程度ある。
- ・また、普段は使用してないが長崎県高体連陸上専門部長の委員長からも意見を預かっている。
- ・3番、松山陸上競技場を週何回主に何曜日何時頃使用しているか
- ・実業団は不定期だが週に3回から5日程度、朝練習または夕方の練習で使わせてもらっているという回答。
- ・大学は週に3回程度。高校生は週に5日から6日程度という回答。
- ・中学校は週に1回土曜日の午前中。
- ・クラブチームにおいては週に2、3回程度という回答。
- ・松山陸上競技場の使用で特に多いときには、それこそ400人とか水曜日が一番多く、400人、500人規模で夕方行われている。
- ・4番、使用の仕方について、どういうふうに使っているか
- ・陸上競技の練習に取り組んでいるという回答。
- ・フィールド内においては、基本練習やトレーニングに使っている。
- ・トラックに関してはリレーの練習やスプリントトレーニングを行っている。
- ・外周コースに関してはウォーミングアップやジョックなどを行っているという回答。
- ・5番、指導者として400mトラックが必要な理由
- ・これは実業団からの意見で、競技会自体が400mトラックでやっているため、本番を想定した練習に不可欠であるとともにトラックのレースは基本400mなので300mだとカーブがきついため足の負担も大きく、怪我のリスクが高まる。
- ・高体連専門部からは長崎地区には拠点となる400mトラックがない。かきどまりにはあるが、日常使いがしづらいということで（まちの中に）400mトラックが必要ではないかという意見が出ている。
- ・また、長崎地区で直線が100m取れる練習の拠点というところはなかなかない。学校のグラウンドは100mの直線を取れるところはほとんどない。そういう部分で開放的なところで練習できるのは非常にありがたい。また分散して練習ができるので250人が集っても接触事故は私17年18年いるが、ほとんど聞いていない。
- ・6番、あなたが思う松山の良さについて
- ・どの年齢層でも時間に縛られることなく利用できる。路面電車やバス停などのアクセスが良く、日常から利用しやすい。他校も練習するので互いに刺激し合える環境である。何よりも人間関係の構築、市民が集うコミュニケーションの場、いろんな人から声かけてもらえるってということが有り難い。まちの中にある緑地が魅力的だっという意見。
- ・7番、再検討部会のなかで出た300mトラックを作る案に関して、安全面がとにかく疑問であるということが一番挙げられている。

- ・ 8 番、中部下水処理場跡地に 400mトラックを作る案も選択肢の一つとして示されたということに関しては、現状のままが一番いいが、300mトラックよりはこちらの方が良いと。とにかく 400mトラックの方が陸上の練習は非常にいいのではないかとこの意見が多かった。
- ・最後に、以上のことから長崎市陸協としては 400mトラックを利用できる環境を強く希望したいと思う。その場合もパターン 1、もしくはパターン 4 が適当であるかと考えている。しかしながら、パターン 4 では、松山陸上競技で長年培った地域に根付いたコミュニティが崩れてしまうところが少し懸念されるところが寂しく思う。

【委員】

- ・ 10 年前の長崎がんばらんば国体では、狭小な施設で相当なクレームもあり、歯がゆい思いをした。
- ・あれから、この 10 年間いろんな取り組みをした。障害者の方の障害者大会も毎年開催して、今年は九州ブロックのやつを行う。今後は障害者と健常者のインクルーシブの大会も開ける、そういう施設ができればなと思いながら再検討部会の方にも参加させていただいた。
- ・私達の意見としては、今ある施設からまた別のところに行くのはもう間違いない決定事項だということで、まず施設のクオリティは必ず大事になってくる。
- ・まちづくりの中ではスポーツコンベンション能力が高まっていないと、せっかく作られても、そのコンベンション能力が低かったら参加する方々も少なくなり、大会も誘致できなくなる。宿泊者数もそうだし、交流人口も減少してしまうということになるとまちづくりにはマイナスになってしまうということがあるので、施設を作るならクオリティを高めてほしいというのがまず一点。
- ・二つ目、せっかくなのでいろんなところを私も見てきた。今回、オープンしたばかりの広島のスッカースタジアムに行った。やはり大きな施設のすぐ側が平和公園だった。市民の方々と施設が一体化してサッカーに入場しない人たちも階段状のスペースで憩いの場になっていたし、また、サッカー場の前でマルシェが開かれて、これから最終的な完成が見込まれているが、(広島のスッカースタジアムのように)雨天をしるようなスペースが長崎にできればいいかなと思った。
- ・それから、屋上の庭園も含めた部分について、先日(横浜の)山下公園に行くと、第 3 埠頭のところにデッキがあって下に施設があった。いろんなことを今から想像できるのがまちづくりの何か手助けになるというか、そういう施設がいずれの場所にしても、できればいいかなというふうに感じた。

【委員】

- ・私の意見だが、プールについてはパターン 3-2。陸上の練習場はパターン 4。陸上は

雨が降っても使えるような排水設備を設置すれば経費は少なくて済むのではないか。

- ・交通の便は、この川の反対側にバス道路があるので、そこに橋を架ければ城山の方からでもバスを降りてここに来られる。そして今度は206号の方はまた206号のバス停もあるので、例えば西高からの学生であれば川を渡って、橋を渡ってくるというふうな経路にすればいけると思う。

【委員】

- ・部会の中でいろいろ意見も言わせていただいたが、最終的に私はパターン3-2を推していた。3-2と言ってもプールの形状が移転する、陸上競技場の跡にプールを持ってこざるを得ないだろうということについては、私はそちらの方の意見である。
- ・形状が変わるから（プールは）1.4ヘクタールとここまで広くつくる必要はないのではないか。
- ・その分、今憩いの広場というパターン3-2で、ここに予定しているところに300mトラックを作ってそこも広場機能を兼ねて、あるいは高架下に憩いの広場を持っていくというやり方もあるだろうから。
- ・そういう意味で渡辺部会長が言ったような、良いとこ取りというような考え方もあるのではないか。
- ・ただ、先ほど山川委員からも意見があったように、井上委員からもあり、400mトラックというのはもう譲れないということであれば、これはもうどこかに作るということでパターン1かパターン4という意見だったけれども、私はプールをここ（陸上競技場）につくるということが経済的には最も有効だと思うので、上下水道跡地にパターン4として、陸上競技場400mトラックを使えるような形で持ってくるということが一番妥協点というか、協議の結果を踏まえた上でのあり方としてはそれを推したいと思う。

【委員】

- ・プールの移転のところで松山っていう意見があるが、以前、今のプールがあるところに国際体育館というのがあった。ここにプールが建つときに国際体育館が撤去された。インドアスポーツのバドミントン、バレー、バスケットの方々たちは、またプールが陸上競技場とかになるのかという話が昨今もあった。
- ・私はそういう話も考える中で、中部下水処理場はどうぞ更地にして、空地にして防災の拠点ならば、今現在も当然陸上の練習場である松山のグラウンドも、もう更地になっているわけである。何ら金をかけずにできるのではなかろうか。
- ・また、プールにするときには更地にする場合の基礎の部分の費用撤去費を、案を、いろいろ出せばいいことであって、先ほど参考人の話もあったように、今から具体的な数字を出していけば、パターン1も十分可能ではなかろうか。

- ・そこで一つ市の方にお尋ねしたいが、2020年に前市長が長崎平和マラソン被爆75周年ということで、平和マラソンを立ち上げた。それがコロナ禍で伸び伸びになり、来年が2025年で80周年を記念して（平和マラソンを）やるのかどうかというのがニュースで一つの話題になっている。
- ・これが本当にやるのであれば、松山の競技場をスタートすることになると、参加者が1万人ぐらい集まる。80周年をやったならば、次90周年、100周年と、いわゆる継続的にやっていくのではなかろうか。
- ・これはやっぱり平和発信を長崎からやるのであれば当然10周年毎でやるとなれば、あの付近に1万人が集まる広場はない。そうすると今回、この場所は、そのまま残すべきじゃなかろうかという考えを持っている。
- ・まず平和マラソンが来年あるのかどうかお尋ねしたい。

【事務局】

- ・今、質問があった平和マラソンの件については、現時点では未定となっている。

【委員】

- ・来年の2025年は被爆80周年であり、延期になっていた平和マラソン大会をやるのかどうか早めに知らせてほしい。

【委員長】

- ・少し議事と趣旨が違うが、事務局への要望ということで預かる。

【委員】

- ・私も第5回の再検討部会の方で申し上げているが、パターン4を当初から推しており、400mトラックは絶対必須である。
- ・また、交通事業者の立場として、中部下水処理場に駐車場を伴う箱物は反対している。
- ・それはもうここに書いてあるが、ジャパネットのスタジアムとココウォークとアミュプラザもある。そこに箱物ができるとどういう交通渋滞ができるか色々議論はされているが、はっきり結論が出ていない。
- ・だから、ここに交通渋滞を招く恐れがあるものは必要ないのではないか。
- ・むしろ、陸上だけじゃなくて中部下水処理場の練習場、先ほどもいろんな意見が出たけれども、やはり市民の憩いの場、今と同じ、今の平和公園と同じ機能を、またイベントもできればいいのではないかと考えている。

【委員】

- ・先ほどパターン3-2に賛同する話をしてしまったが、約1年ぶりの委員会でどれを

選べというのはなかなか酷なところと思いながら、今日の話のなかで400mトラックは非常に大事というので、パターン1か4に絞られてくるのかなというのが個人的な感想である。

- ただ、あとはコストの問題が、1か4だと分かれ目になってくるということで、先程は渋滞の話というところが出てきたと思うので、それ以外の安く済む、もしくは渋滞にならない他の場所か違うやり方っていうのも模索していけたらいい。

【部会長（副委員長）】

- 今3つのパターンを巡って議論があったわけだが、パターン3-2に関しては、陸上競技における練習環境というものがやっぱり十分に確保できない点が問題視された。
- これに関しては、山川委員からも非常に客観的な根拠に基づいて担当者の意見も紹介していただいたので、恐らくパターン1、もしくはパターン4に絞れるだろう。
- パターン1、パターン4に関してはどちらもだが、あえて申し上げれば、パターン4の方がコストの問題、あとは両競技にとって必要な環境が確保できるという点から望ましいと考えられる。
- パターン4に対しては、川添委員からの想定できない交通問題が発生する可能性を回避できるという意見等をはじめとして、肯定的な意見が多かったと思う。
- とは言っても、パターン1に関しても、井上委員からも根強く支持する意見もあり、あとコストの考え方如何によってはパターン1もあり得るのではという意見もあったので、その点については2つのパターンに絞られはするけども、もう少し精査する必要があるのではないかな。
- どうしてもこの両案から選定するに当たっては、コストを改めて精査するということと、平和とか本来の機能との折り合いをどうつけていくのかを、景観に対する配慮も含めていくことも考えながら、検討していくことがいい。
- あとパターン1に関しては、密度という点から憂慮された。密度は、都市計画にとって非常に重要な観点である。近代都市計画が誕生した背景には、中世都市に起源を持つ比較的狭い市街地に産業革命に伴って工場・住宅が多く発生し非常に高密度な環境が形成されたことがある。近代都市計画が発生した動機の一つには、それをいかに適正な密度に改善するか、あるいはコントロールするかがあった。
- ここ（中部下水処理場）に建物が建った場合には、適正な密度が担保できるのかという点が気になった。パターン4により創出される広場的空間は、建物と比べると、設備が少ない空地である点において、状況に応じて空間の形態を変えられる暫定性とか、当初、想定していない機能を後から加えることによる多機能性の発揮とか、近年、都市計画において大きな関心を集めているキーワードを踏まえた活動を展開し得る空間と考えられる。
- この両案のどちらが良いかを検討するにあたっては、先の都市計画の見方も踏まえな

がら、行っていただけたらよいと思う。

【委員長】

- ・部会長の言葉をもって、委員会を締めくくらせていただく。
- ・あとは行政として皆様の意見を踏まえて、判断していただくことになるかと思う。
- ・ついては、委員長と部会長名で市には中間報告をさせていただきます。
- ・本日の予定していた議事は以上となる。委員の皆様においては、円滑な議事進行の運営にご協力を賜り、感謝申し上げます。

閉会

○事務局より閉会の挨拶